マスターズ広島 News Letter

第 28 号（2026 年 9 月 30 日）
発行：広島大学マスターズ広島事務局

今号は、2026 年度第 13 回総会の実施報告と会員からの寄稿を中心にした記事をお届けします。

はじめに、2026 年度第 13 回総会の実施報告を掲載します。つぎに、会員からの寄稿４編を掲載しています。最初の２編は、植村代表幹事による広島大学マスターズ（西条）の総会出席報告および同総会での挨拶、続く２編は、椿会員による職員ソフトボールチームでの奮闘記、および久保田会員による被爆体験と人の生きがい、という内容になっています。その後、幹事会の開催などの活動状況を簡潔に紹介し、最後に今後の予定と会員異動と続いています。

【読者の皆様へのお願い】当会のウェッブサイトにも是非アクセスしていただくようにお願いしたいと思います。以下の URL にアクセスして、「お知らせ」、「事業概要」、「会報」、「例会などの案内と報告」などのページをご覧ください。本号に記載の項目や関連する項目について、より詳しく説明した記事あるいは別の視点から記述されている記事を閲覧することができます。また、ファイルをダウンロードすることもできます。

「広島大学マスターズ広島」ホームページ

【目次】

１．第 13 回総会・懇親会 実施報告
1.1 総会概要
1.2 第 13 回会員総会 代表幹事挨拶
1.3 総会に引き続き開催の懇親会について
２．会員からの寄稿
2.1 広島大学マスターズ第 21 回総会参加記 ・・・・・・・・・ 植村泰夫
2.2 広島大学マスターズ総会におけるご挨拶 ・・・・・・・・・・植村泰夫
2.3 ウェンズデーの思い出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 椿 康和
2.4 被爆者体験記の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・久保田 清
３．幹事会の開催について
４．今後の予定
５．会員異動

Ⅰ．第 13 回総会・懇親会 実施報告

1.1 総会概要

日 時：2026 年 6 月 13 日（土） 16 時～16 時 40 分

場 所：広島大学東千田キャンパス総合校舎 L 棟

5 階地域連携フロア SENDA LAB 多目的スペース

出席者：正会員 18 名、参与 2 名

議題、資料および議事進行状況（議事録は別途作成・提示）：

1．議長の選出

植村泰夫代表幹事を議長として選出し、議事進行を担当していただいた。

2．代表幹事挨拶

はじめに、植村代表幹事から総会出席の皆さんへ挨拶があった（写真 1）。上 真一参与（広島大学マスターズ代表幹事）、金田 晉参与、原田康夫会員（元広島大学長）をはじめとして出席者の方々への感謝の言葉に続いて、本会の設立目的に言及しながら、2020 年～2023 年のコロナ禍での活動停滞、2024 年の総会を契機とした活動再開など、これまでの活動を簡単に振り返られた。加えて、創設 16 年目に向けて、幹事会の高齢化、会員構成の教員偏向、活動対象の固定化など当会が直面する課題を指摘され、改善の必要性を強調された。

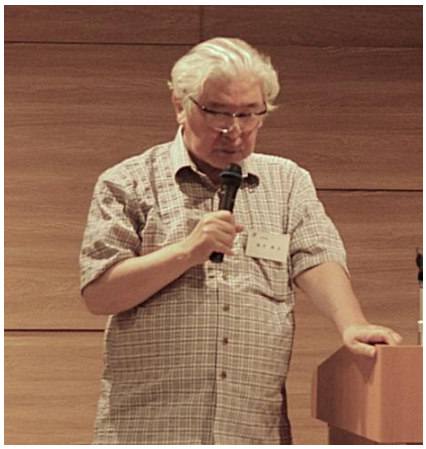


写真 1：植村代表幹事の挨拶

3. 来賓挨拶（金田 晉 参与）

創設メンバーとして本会への関わりを述べられる中で、地域活動や大学教育への支援、会員の親睦を深めること、などの設立理念に触れながら、「西条のマスターズも頑張るので、本会もさらなる発展をめざしてほしい」とエールをいただいた。（写真２）



写真２：金田参与の挨拶

4. 会員の状況 【報告資料】

椿幹事から、2026 年 5 月 30 日現在の会員数等について報告があった。その後、前回総会以降に他界された会員の方たちへ黙祷を捧げた。

5. 役員の選任について 【資料 1】

資料 1 にもとづき、椿幹事から説明された退任および新任に関して、原案通り承認された。

6. 2025 年度事業報告　　【資料 2】

資料２にもとづき、椿幹事から説明があり、審議の結果承認された。

7. 2025 年度決算報告　　【資料 3】

資料３にもとづき、圓山幹事から説明があった。

8. 会計監査報告

監査欠席のため、圓山幹事より、2025 年度の決算について、5 月 15 日に野村監査と、5 月 26 日に桑原監査とそれぞれ実施した会計監査において適正処理を確認していただいたと報告があり、決算報告が承認された。

9. 2026 年度事業計画　　【資料 4】

資料４にもとづき、椿幹事から説明があり、原案通り承認された。

10. 2026 年度予算　　【資料 5】

資料５にもとづき、圓山幹事から説明があり、原案通り承認された。

11. 議長の総会終了宣言の後、出席者全員で記念写真を撮影した（写真３）。



写真３：出席者全員での記念撮影（出席者の姓のみ敬称略で記載）

（後列左から）圓山、渡邉、武市、三井、水羽、中田、米倉、大杉、於保、寺本

（前列左から）椿、渡辺、上、植村、原田、金田、鈴木、廬、三本木、久保田

（寺本会員は出席であるが、所用のため撮影時不在）

1.2 第 13 回会員総会 代表幹事挨拶

本日は、総会・懇親会にお集まり下さり、誠にありがとうございます。みなさまのお元気なお顔を拝見できまして、たいへん嬉しく思っております。またコロナ禍を挟んで減少傾向にあった総会参加者が久しぶりに 20 名に達したことは、喜ばしいことです。

本会は昨年８月の総会においても申しましたが、2010 年 8 月に、「広島市在住の広島大学の元教職員及び本会の活動に関心のある者を中心として、会員相互の親睦・交流等を深

め、地域社会及び広島大学のニーズに対応した活動に協力するとともに、広島大学の行う社会連携等の各種事業を支援することを目的」として発足し、(1)会員相互の親睦・交流、(2)地域社会のニーズに対応した活動及び市民の生涯学習に対する支援、(3)広島大学が行う社会連携等の各種事業に対する支援、(4)その他本会の目的達成のために必要な事業、を活動内容にして来ました。これが本会の原点ですが、本日の総会を以てこうした活動は 16 年目に突入するわけです。

昨年８月の総会では、創立 10 周年を記念する事業の準備に入った 2020 年初めからいわゆる「コロナ禍」が厳しくなり、「10 周年記念会員総会・懇親会(第 11 回総会）」、広島における平和教育とわれわれの「平和科目」の現状を考える「10 周年記念シンポジウム」などの催しはすべて中止せざるを得なくなり、唯一実現したのが会報「創設 10 周年記念特集号」の発行であったこと、その後もコロナは熾烈さを増し、会の活動はほとんど停止し、新入会員募集もままならなかったこと、ようやく 2023 年から状況が好転し始め、24 年 4 月 27 日に約 5 年ぶりに第 11 回総会を開き、この 5 年ほどの時期の活動を総括し、今後の活動計画を議論・決定することができ、これをきっかけに会の活動はほぼ正常に戻ったことをお話しし、24 年度の活動については具体的に報告しました。昨年度(25 年度)の活動については、後に総務担当幹事から具体的に報告してもらいます。

いずれにせよ、こうしてマスターズ広島の活動はもとに戻ったわけですが、今後、さらにこの会が発展するために改善すべき点を、昨年の総会では３つ挙げました。(1)幹事会の「高齢化」、(2)会員が元教員に偏りすぎており、元事務系職員が極めて少ないこと、(3)10 周年記念行事の企画に際し提起された、「シンポジウム」のように、「マスターズ広島」が大学の枠から一歩外に踏み出した活動を志向する必要があるのではないか、という点です。残念ながら、これらの点はいずれも 25 年度を通じて前進が見られておりません。さらに、様々な活動への参加者が、なかなか幹事以外の会員に広がらないという問題もあります。

これらの点は基本的には企画を行う幹事会の責任だと思いますが、催しがいささかマンネリ化しており、企画の段階から幹事以外のみなさまのお知恵を借りて、新しい視点、考え方を反映させる仕組みを工夫する必要があるとも考えております。会員のみなさまには、これらについてぜひご意見をお寄せ下さい。また、いろいろとご協力をお願いすることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

1.3 総会に引き続き開催の懇親会について

総会終了後、同じく多目的スペースにおいて懇親会が行われた。総会終了少し前からケータリング業者が会場の周辺部で懇親会の設定を開始し、総会終了後に会場の中心部の設定に取り掛かる方式を採用することで定刻に開始できた。

司会進行は於保幹事に担当していただいた。開催要領は以下の通りである。

日 時：2026 年 6 月 13 日（土） 17 時 30 分～19 時 00 分
場 所：広島大学東千田キャンパス総合校舎 L 棟
5 階地域連携フロア SENDA LAB 多目的スペース
参加者：18 名
進行状況等：大まかに（1）～（6）に分けて述べる。



写真４：上代表幹事の挨拶

（1）開会の辞

於保幹事の開会の辞により懇親会を開始した。

（2）来賓挨拶

マスターズ広島の上代表幹事からご挨拶をいただいた（写真４）。その中で、西条の広島大学マスターズの活動規模・対象と東広島市の都市サイズが調和している、と述べられたことが強く印象に残っている。西条、広島の両組織はほぼ同じ規模であるが、西条側の活動は東広島市民の生活に根差した取組が多く、同市の手厚いバックアップがあることなどが、このことの一つの要因であろう。広島市という大きな都市を活動の場とする当会にとって、広島市との間に西条側と同様の調和関係を構築・維持することの難しさを感じた。



写真５：原田会員（元広島大学長）による乾杯の発声
（右は、司会の於保幹事）

（3）乾杯の音頭

来賓挨拶に引き続いて、原田会員（元広島大学長）に乾杯の音頭を取っていただいた。会場全体にいきわたる十分な声量で乾杯の発声をされた（写真 5）。お若い頃と変わらぬ澄んだ声と声量には驚くばかりであった。総会・懇親会への出席は初めてとのことで、乾杯の発声に先立って、出席された理由を「東広島市への大学移転に際しての多大な協力について皆さんに謝意を表するため」と説明された。学長在任の 1993 年～2001 年の前半（一期目 1993 年～1997 年）は、広島大学の東広島市移転において多くの学部、事務組織や図書館などの移転が終わり、1997 年は（一部まだ残っていたが）1982 年に始まった移転が実質的に完了した年である。当会の会員にも移転に関わった方が多く、今回の原田会員のご出席は時宜を得たものであった。

（4）歓談・挨拶

乾杯のあと暫く、参加者には食事をしながら歓談の時間を過ごしていただいた（写真６、写真７）。



写真６：歓談の一コマ（左下から右回り）植村代表幹事、原田会員、中田会員、および上参与



写真７：歓談の一コマ（左から）三井会員、および新規加入の盧会員と三本木会員

暫くして、三本木、盧の2名の新会員の方から自己紹介と挨拶をいただいた。それぞれ入会の動機や経緯、さらには現状と今後に向けての思いなどを述べられた（写真８）。三本木会員は定年より少し早く本学生物生産学部を退職されて私学に異動されたが、離れてみて広島大学の良さを実感している、と言われたことが強く印象に残っている。盧会員は、1998年（平成10年）から在籍であったことや言語学が専門であることに加えて、自動車で日本全国を一周された思い出も述べられたが、これも印象に残っている。近いうちに、この総会・懇親会を中国で開催してはどうか、などの提案もされた。



写真８：三本木会員（左側）および盧会員の挨拶

このあと、元広島大学長の原田会員に対して、会場の何処からともなく歌声を披露してほしいという声が出てきて、それに応えられて2曲を伴奏なしで歌われた。1曲目は良く知られたカンツオーネの歌曲「オー・ソレ・ミヨ」であった。２曲目については、当方のメモによると「呉の曲で、音戸の

瀬戸」と言われたとあるのだが、ネットで調べた結果から「音戸の舟唄（舟歌）」が該当する曲名ではないか、と考えている。いずれにしても会場いっぱいに響くその声量には彼方此方で驚きの声が上がった（写真９）。



写真９：原田会員の熱唱

（５）懇親会の終了について

予定時刻に近づいたことと料理や飲み物および参加者の歓談などの状況を踏まえて閉会のタイミングと判断し、於保幹事の閉会の辞により懇親会を終了とした。

（６）懇親会終了後について

終了後、ケータリング担当業者および幹事団で直ちに後始末の作業を開始した。料理や飲み物の後処理、さらに会場設定の原状復帰等の作業を行った。昨年度既に経験していた作業でもあり、会場管理者による原状復帰状況のチェックは週明けということで、午後７時 30 分にはすべての作業を終了して解散となった。

２．会員からの寄稿

2.1．広島大学マスターズ第 21 回総会参加記

植村泰夫

6 月 6 日(土)の 16:00～17:00 に開催された広島大学マスターズ第 21 回総会に参加したので、その模様と、感じたことについて述べておきたい。

総会は物故者に対する黙祷から始まり、次いで開会行事として開会の辞、来賓紹介、代表幹事挨拶(上真一代表幹事)、来賓挨拶(坂田副学長による学長挨拶代読、東広島市教育長、植村広島大学マスターズ広島代表幹事)が行われた。植村は、マスターズ広島の活動を紹介し、今後の活動発展に向けて考えていることを若干述べた(詳細は別掲の挨拶文を参照)。

先ず会員数については、昨年度総会以降に 6 名の新入会員を迎えた結果、正会員数が 100 名(教員 98 名、事務職 2 名)に達したということだった。そして今回の総会参加者は 28 名であり、われわれの会に比べて参加者が多いことが特徴的である。これはなぜなのかについては、考察する必要がある。

昨年度の活動報告では、主催事業として「世界の半導体の市場の動向とマイクロンメモリジャパンについて」(第 22 回、25 年 9 月 13 日、秋山裕明氏＝マイクロンメモリジャパンディレクター)、「どうなる?広島のお米」(第 23 回、26 年 1 月 25 日、講師：細野賢治氏

＝広大教授)という、タイムリーな内容の講演会が行われた。例会は 25 年 11 月と 26 年 1 月の 2 回開催で、内容はウォーキング大会である。

広報活動では「広島大学マスターズ通信」49 号、50 号を 25 年 8 月 31 日と 26 年 3 月 31 日に発行した他、ホームページに加えてネット利用による広報活動に力を入れており、講演会の広報において東広島市に依頼して、市のホームページ(「イベントを探す」)、X、Facebook による広報を行っている。

これは市民向け講座が活発に行われていることと関係が深い。市民講座では(1)「東広島を楽しくスケッチしよう」、(2)「大規模災害と被災者支援」、(3)「小学生のための実践的な将棋講座」、(4)「自分史を語る―学生運動・広島大学の統合移転・自身の研究歴など―」、(5)「交通事故の法律問題」の 5 つが行われ、特に(1)では参加者のスケッチを集めた作品展を開催し、今後、作品集を刊行する予定があるという。次に「東広島生涯学習まちづくり出前講座」に a「健康寿命を延ばす食べ物」、b「小学生のためのおもしろ理科実験」、c「大規模災害と被災者支援」の 3 メニューを提供し、出前講座として複数の会場で実施した。参加者は a が合計 93 名、b が 116 名、c が 75 名と盛況だったようだ。

広大への授業提供では、「平和科目」として「平和と人間」A、 B を会員のみで担当した他、短期研修講座として中国、韓国、及び非漢字圏からの留学生を対象に「日本文化論」(講義回数 9 回)、「日本の絵画―鳥獣戯画の世界」(5 回)、「日本の伝統スポーツと礼―武術から武道へ―」(4 回)が行われた。

その他、「ちゅーピーカルチャーセンターへの協力」として「水彩・油絵」、「美術を読むー19～20 世紀転換期の美術革命」の 2 つのレギュラー講座が行われ、広島リカレント学院への協力として、専門講座の英会話、健康ウォークと、15 の教養講座に担当者を出している。

2026 年度の事業計画の中で特筆すべきは、「広島大学マスターズ創立 20 周年記念事業」の開催であり、4 名の専門家によるシンポジウム開催と祝賀会(11 月 28 日)、20 周年記念誌発行(27 年 1 月)、画集出版などが予定されている。

なお、平和科目担当幹事から、西条と広島の教員の相互乗り入れを実施出来ないかという要望があり、また「リカレント」担当幹事からは広島からもリカレントに人間を出してほしいという要望があった。これらは今後の検討課題である。

以下、特に感じた点を若干述べておきたい。第 1 は、既に実例を挙げたように、われわれよりも活動の幅が広く、特に市民向けの催しが多い点である。これは西条という場所の特性を踏まえた活動だと思われ、われわれには少々難しいと感じられる。

第 2 は、幹事会の体制がわれわれと大きく違う点である。これについては、やや詳細に見ておきたい。幹事の役割としては代表幹事、副代表幹事、庶務、会計、広報、平和科目(以上は各 1 名)と監査(2 名)はわれわれとほぼ同じであるが、これ以外に例会・懇親会等、

講演会・シンポジウム等、短期研修、市民講座、出前講座、広島リカレント学院、ちゅーピーCC(各１名)の各担当がおかれている。そして最も違うのは、担当幹事の他に協働幹事と呼ばれる役職が庶務、会計、例会・懇親会等、広報、講演会・シンポジウム等、平和科目、短期研修、市民講座、出前講座、広島リカレント学院、ちゅーピーCC に１～6 名おかれていることだ。協働幹事が置かれるところでは、2 ヶ月に一度の幹事会の前に、必要な場合には担当幹事と協働幹事が会議を持って、幹事会への提出意見を内部でまとめることになっているという。ただし、複数の幹事を兼任する者が 4 名(うち 3 名は他に協働幹事をも兼任)、幹事１つと協働幹事の兼任が 2 名、幹事のみが 3 名(うち１名は幹事 3 職兼任)、協働幹事のみが 7 名(うち 3 名は複数の協働幹事を兼任)となり、合計 16 名である。これによって幹事の多忙さが改善できているか否かには疑問が残るが、われわれの幹事会の体制改善に向けた１つの方向を示しているのかも知れない。すなわち、様々な取り組みの企画と準備に、現在よりも多くの会員が実際に取り組むことになるので、諸活動・行事への参加意欲がそれだけ高まる可能性があるのではないだろうか。

いずれにせよ、幹事以外の会員が様々な催しに主体的に参加してもらうために、何らかの制度改革が必要だと思われ、今後、西条のシステムも参考にして幹事会の中で検討して行きたいと考えている。

2.2. 広島大学マスターズ総会におけるご挨拶

植村泰夫

ただいまご紹介いただきました、広島大学マスターズ広島代表幹事の植村泰夫です。本日はお招きいただきましてありがとうございます。ご挨拶を兼ね、私どもの活動の一端をお話しさせていただこうと思います。

私どもの昨年度の活動は 2025 年 8 月 27 日の第 12 回総会・懇親会から始まり、来週の土曜日に開催予定の第 13 回総会・懇親会で終わります。例年８月に開催しておりました総会を６月に変更しましたのは、猛暑の中での開催がしんどいからで、多少はこれで楽になるだろうと思っております。また、広島大学マスターズの総会と日程がダブらないように、私どもの方が１週間遅らせて開くことにしました。

活動としては例会の開催、ミニ懇話会、広島大学への授業の提供、会報の発行などを行ってきました。例会では春の例会(４月 15 日)で「オタフクソース株式会社本社工場とおこのミュージアム見学」(参加者 11 名)、秋の例会(11 月 13 日)で「岩国市の錦帯橋とその周辺の散策」(参加者 8 名)を行いました。この他に、これは 26 年度の春の例会になるのですが、今年４月２日に「比治山公園散策～花見と現代美術鑑賞」を行いました(参加者７名)。これらの詳細は、私どものホームページに掲載しております。

次にミニ懇話会は25年10月4日に圓山裕会員による話題提供で第5回「鉄は硬いが役に立つ―磁性物理と材料科学―」(参加者10名)、26年2月28日に第6回を開催し、岩崎文人会員に「原子雲の下で―大田洋子・原民喜・栗原貞子・峠三吉―」というテーマで話題提供をしていただきました(参加者11名)。この試みも、6回目を数えることになり、何とか軌道に乗ってきたと思っております。

広大への授業提供では、平和科目の「平和と人間C―広島で学ぶ(原爆とは何だったのか―」(霞キャンパス、第2ターム開講)、「平和と人間D―広島から未来に向けて―」(東千田キャンパス・夜間主コース、前期開講)を担当しておりますが、授業をおおまかに「放射線被爆」(原爆被害や放射線の働きを自然科学的観点から講ずるもの)、「世界史のなかのヒロシマ」(ヒロシマの被爆を世界史的な流れの中で論じる)、「広島の復興と継承」(原爆被害からの復興を辿り、今後のわれわれの対処法を探る)に分けて、複眼的な見方で問題を明らかにすることを目指しております。このため、会員外の先生方の協力を仰いで、授業に取り組んでおります。

また「大学院共通授業科目」の授業として、医歯薬保健学研究科医歯科学専攻(修士課程、社会人大学院生対象)の「健康生活科学」を担当してきました。ただ、残念ながらこの授業は、26年度から廃止になりました。

この他、『マスターズ通信News Letter』26号、27号を発行しました。また幹事会は61回(25年5月10日)～68回(26年5月30日)と、広島大学マスターズに倣って概ね2か月に一度のペースで開催しております。

このように、私どもの活動はようやくコロナ禍による一時の不調を脱して軌道に戻りつつあります。会の財政も安定しており、新入会員も昨年の4名に続き、本年は3名を迎えることができました。

ただ、今後、さらなる発展を目指すためには、いくつかの課題があることも事実です。とりわけ幹事以外の会員の行事への参加が少ないことが、大きな問題です。このことは、結果的に幹事の老齢化の原因となっており(大半の幹事が後期高齢者です)、60歳代の会員に活動の中心になってもらい、私どもの活動を将来向けて継承していくために何をすべきかを考えなければなりません。私どもは幹事会の中でようやくこの問題について議論を始めましたが、なかなかこれはという方策は見つからず、さしあたりはフリートークの形でゆるやかに考えていこうとしております。またこれについては、是非とも先輩組織である広島大学マスターズの経験を伺って参考にさせていただきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

2.3. ウェンズデーの思い出

椿　康和

■ウェンズデー加入

私が広島大学経済学部の助手に採用されたのは 1981 年（昭和 56 年）でした。当時の法学部と経済学部には、40 代までの若手教員中心としたソフトボールチームがあり、毎週水曜日の昼休みに、東千田キャンパスの南グランドで法学部・経済学部の職員チームと対戦するのが恒例でした。なぜ、水曜日か？　それは教授会とゼミが水曜日にあるため、殆どの教員が集まる日だったからです。その結果、チーム名が「ウェンズデー（水曜日）」となるのは必然のことでした。

ウェンズデーの発足は、法学部・経済学部の前身の政経学部時代に遡ります。伝え聞くところによると、政治史・外交史講座の助教授だった故矢野暢先生が音頭を取り、同じ講座の故五百旗頭眞先生を初めとして、助教授以下の若手教員を誘って立ち上げたようです。矢野先生は 1972 年に京都大学に転出されているので、発足したのは 1970 年前後だと思われます。初期からのメンバーには、本会会員の辻秀典先生（社会法）、小村衆統先生（金融論）、松水征夫先生（経済類型論）も名を連ねておられました。法学部と経済学部が政経学部から分かれて誕生したのは 1977 年ですが、教授会は両学部が交互に水曜日の午後開催としたので、ウェンズデーの活動はそのままの形で継続することになりました。

私自身は小学生の頃の三角ベースや、学部生時代に南グランドで学友とボールを追った程度の経験しかありませんでしたが、論文を読むだけの日々の生活に物足らず、先輩の先生方に誘われるままチームに加わりました。天気の良い水曜日は、試合が待ち遠しく朝からわくわくしていました。学部のゼミを持つようになっても、それを早めに切り上げ、さっさと着替えてグランドに飛び出します。試合が終われば、汗を拭ってあたふたと会議に向かっていました。また、水曜日以外も、都合がつけば仲間とキャッチボールやノックで体を動かしていました（写真 10）。



写真 10：「南グランドでのプレー風景」

新人としてスコアブックの付け方も初めて教えていただきました。スコアブックは重要でした。30 試合くらいの年間シーズンが終わると、納会という名の懇親会があり、スコアブックから集計した成績にもとづいて、首位打者、打点王、盗塁王などが表彰され、MVP が選出されました。そして、大学正門横のカキダであつらえたトロフィーを持ち回りで研究室に飾るのです。

■プレイヤー達

私のポジションは外野手でした。若い頃はまだ足に自信があり、俊足を生かした広い守備範囲で何度もピッチャーの窮地を救ったという自負はあります。打撃面では中距離ヒッターで、主軸の先生方がレフト後方の弓道場近くまで飛ばす打球を、うらやましく眺めていました。

当時の名プレイヤーを紹介しましょう。投手陣は剛速球の辻先生とウィンドミルのサウスポー阪本昌成先生（憲法）の強力な二本柱を擁していました。バッテリーを組んでいたのは、元気の良い竹内常善先生（日本経済史）や川崎信文先生（行政学）でした。数ある打者の中では、チームリーダーで、春には弓道場の桜を散らしていた不動の四番菅壽一先生（財政政策）と、鋭い打球で右中間を切り裂いた高哲男先生（経済学史）のお名前を挙げておきます。また、五百旗頭先生が神戸大へ転出される際のチーム送別会では、吉原達也先生（法制史）と一緒に企画した、背番号 500 番のユニフォームを贈ったことも記憶に残っています（政治学会では年次大会開催時に草野球の試合をするのが通例で、そのユニフォーム姿で登板されていたと聞いています）。

対する職員チームです。用務員の大西さんには、水曜日には、学生達に先んじて、12 時前から南グランドで試合の場所を確保していただきました。また投手としても数多く対戦しました。本会会員の中では、法学部・経済学部職員チームのメンバーとして、エースの野村建明さんの他、本田幸三さんや田原正治さんらが名を連ねていました。

■夏の大会



写真 11：部局対抗ソフトボール大会
準優勝メンバー（1984 年夏）

当時は他の部局でも昼休みにソフトボールを楽しんでおり、図書館や理学部の数学科のチームと時折交流試合を行っていました。そして、毎年夏に全学規模で行われる部局対抗のソフトボール大会に出場し、好成績を上げることがチームとしての大きな目標でした（写真 11）。1984 年の夏には、勝ち進んで行ったものの、主力メンバーが相次いで学会出張等で欠場することになり、決勝戦で涙をのむ結果となったこともありました（確か、学内誌「不死鳥」に小谷朋弘先生（社会学）の手記が掲載されていたはずです）。

■交流

楽しみは試合やチームの納会だけではありません。教授会が行われる会議室では、時折、夕方から対戦相手の職員チームの皆さんと冷えたビールを酌み交わして、昼のゲームを振

り返ることがありました。さらには、延長戦と称して先生方と鷹野橋の飲み屋「峯政」に流れて行くことも。その場は、ソフトボールに限らず、研究者としての悩み、教育や学部運営に関する問題などを先輩方や仲間達と相談できる機会でもありました。また、このような交流を通じて培われた事務職員の方々との関係は、後々、東広島への移転作業や教育環境の整備計画立案など、様々な局面で私を助けてくれることになりました。

現在の大学教職員の置かれている状況からすれば、とても牧歌的な時代でした。しかし、ソフトボールという「遊び」を通じた教職員間の交流が、当時の私たちの教育研究生活にとって潤滑剤として不可欠であったことは事実なのです。

■終幕

私の後に採用された若手教員達も、次々とチームに参加して楽しい日々が続いていましたが、1995 年の東広島キャンパスへの移転を機に、ウェンズデーは終焉を迎えることにな



写真 12：ウェンズデー最後の公式戦（1994 年 11 月 30 日）

りました。移転を翌年に控えた 1994 年 11 月、南グランドへのお別れの記念として、法学部と経済学部の教員チーム同士で一戦交えました（写真 12、前列右端でカープの帽子をかぶっているのが筆者）。そして、移転後の新天地でも、しばらくの間活動を継続しようと模索しました。しかしながら、新校舎からグランドが遠くなってしまったこと、広島市内から東広島キャンパスへの長距離通勤の負担、そして何より、押し寄せる大学改革の波とい

う教職員を取り巻く環境の大きな変化が、このような「遊び」を許さなくなっていたのです。

2.4. 被爆者体験記の紹介

久保田 清

【はじめに】

マスターズ広島 News Letter、第 25 号の会員メッセージを見て、投稿させていただきました。

平和科目の項目を見て、被爆体験された方の担当者が少なくなってきているのを見て、昨年、下記の体験記を執筆したのを紹介したくなり、投稿させていただきました。

【被爆者体験記】

中国新聞（R7/2/19）に、被爆 80 年を迎えて、国立広島原爆死没者追悼平和記念館が体験記の応募を呼びかけていると報道されました。それで執筆させていただきました。

追悼平和記念館の閲覧室の資料の「被爆者体験記」、122 巻、97-121 頁（2025/3/11）として受理されました。

平和公園内にあり、入場無料です。訪館されて、ご笑読を賜ればと思い紹介させていただきました。

牛田小学校に入学した頃から、自分の記憶力、社交性などが人並み以下を感じて、引きこもり生活をしていました。2 年生のときに、縁故疎開して、入市被爆体験をしました。

４年生のときに、大変優秀で、人並み以上のクラス仲間の碓井静照氏が遊びに来てくれるようになりました。碓井氏の支援と励まして、広島大学工学部を卒業できました。日本ゴム研究所に就職して、2 年で退職して、名古屋大学大学院に進学しました。名古屋大学工学部に再就職しました。昭和 49 年に転職できた広島大学生物生産学部を平成 13 年に定年退職できました。私の人生の構築をしてくれた碓井氏のことを紹介したくて、体験記を執筆しました。

【生きがいのある生活】

前述の碓井氏は光明寺の長男でした。原爆当日の被爆者の悲惨な光景を本堂で目の当りにされました。住職を弟に引き継いでもらって、医師となり、国内外に向けて、被爆者検診をされるなど生きがいある生活をされました。74 歳で他界されて残念です。

クラス仲間に、人並み以上の小倉桂子氏（旧姓が山根氏）がおられました。早稲田神社で目にした原爆当日の被爆者の悲惨な光景は忘れられないそうです。広島市での G7 首脳会議とか、日本被団協のノーベル平和賞の受賞会議など、国内外で、英語で被爆者証言をされてきています。米寿を超えて、現役活動されています。

前述の体験記で、生きがいある生活をされてきた碓井氏と小倉氏のことを紹介させていただきました。

将来に向けて体験記を書き残すことができたことで、私も生きがいある生活ができたと思わせていただけることになり、嬉しく思っています。

３．幹事会の開催について

第 67 回幹事会

開催日時：2026 年 4 月 25 日（土）

開催場所：東千田キャンパス　未来創生棟 4 階　MR4－6

第 68 回幹事会

開催日時：2026 年５月３０日（土）

開催場所：東千田キャンパス　未来創生棟 4 階　MR4－6

第 69 回幹事会

開催日時：2026 年 9 月５日（土）

開催場所：東千田キャンパス　未来創生棟 4 階　MR4－2

４．今後の予定

【例会】

2026 年度秋の例会

実施日：2026 年 11 月 12 日（木）

見学場所：「大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館)」（ガイド付き見学）

その他、詳細は後日提示

【幹事会】

第 70 回幹事会

開催日時：2026 年 11 月 21 日（土）

開催場所：東千田キャンパス総合校舎（A 棟）4 階 405 演習室

５．会員異動

【新任】下記の方が新たに監査に就任されました。

三井正信会員（桑原勝己監査の後任）

【新入会員】下記の方が新たに会員となられました。

由比義通氏（人間社会科学研究科、教育学部）

【退会】下記の方々から退会届が提出されました。

平岡朝子会員（附属病院）

下岡丈次会員（技術センター）

【訃報】下記の会員の訃報が届きました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

多和田眞一郎会員（国際センター、元留学生センター長、2026 年 5 月）

瀬山一正会員（医学部、2026 年９月）

【お詫びと訂正】下記の方は会報第 27 号「会員異動」において新入会員として紹介しましたが、お名前を誤記して発行してしまいました。不手際を深くお詫びいたします。ここで、下記のように訂正させていただきます。

津賀一弘氏（医系科学研究科、歯学部、前社会連携・基金・校友会担当理事・副学長）

広島大学マスターズ広島事務局
〒730-0053　広島市中区東千田町一丁目１番 89 号
広島大学東千田地区支援室気付
E-mail : masters2@hiroshima-u.ac.jp